

個人の生活 (その5) < 飯島 Mさん >

戦 争

地面に突き刺さり火を噴いていた焼夷弾を引き抜き川に投げ込み消し止めた。

双胴の艦載機、ノースアメリカンが超低空で飛来し、航空帽をかぶった兵士と目が合って、とても怖かった。機銃掃射に合ったこともある。

上空に偵察機らしき飛行機が確認されると、あくる日には、爆撃を受けた。

湘南平の高射砲は、敵機に命中しなかった。空中戦もみた。

軍事教練の教官は、怖く、びんたもあった。

飯島に『赤とんぼ』が墜落し、機体は前のめりに回転していた。

練習機は、中津飛行場(厚木)からで、農業高校生などが飛行場の草刈をした。交通手段は自転車、お国の為に働いた。

平塚大空襲の金田地区への爆撃は、詳しいことは分からないが、機載レーダーに道路が映り、攻撃目標にされたのではないのかな。

学徒動員で、横須賀海軍工廠分工場、その他の軍需関連工場に出かけた。分工場には、女子挺身隊として東北から徴用された女子が、多数働いていた。爆撃で死亡した女子を茶毘に付したが、年端も行かぬ子供たちを、涙で送った。

遊 び

片岡の子供から、「飯島のメダカしょう、出たり引っ込んだり」と囃され、答えて、「片岡のぼんくら。」などと、言い返した。

よく、金目川を挟んで、石の投げ合いをした。

道祖神まつりのお仮屋は、道祖神のあった、木間さん脇の「えのき」の根のところに建てた。

地 誌

小学校の建築中、初一(初等科一年生)は、避病院で勉強した。ガラス窓があった。音楽の上手な三浦先生が担任だった。

避病院は、伝染病の患者を隔離・治療する病院で、患者の運搬には竹製の「おかご」が使われ、担ぎ手は、同じ部落の者があたった。病死の時には、焼き場に運ばれ、茶毘に付された。焼き場は、鈴川と渋田川の合流点辺りだった。